



## 一括インストールの実行

この章では、複数のデスクトップに一括インストールする方法について説明します。ここで説明する内容は次のとおりです。

- [インストールの前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Secure Email Reporting Plug-in の一括インストールツール \(1 ページ\)](#)
- [インストールの実行 \(10 ページ\)](#)
- [カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用 \(23 ページ\)](#)

## インストールの前提条件

Cisco Secure Email Reporting Plug-in アプリケーションをインストールする前に、次の要件が満たされていることを確認します。

- Microsoft .NET Framework 4.6.1 以降
- Microsoft Office Primary Interop Assemblies

これらの項目がインストールされていない場合は、前提条件のリストに含まれるすべてのソフトウェアをインストールすることを求めるプロンプトがプラグインのインストーラに表示されます。

## Cisco Secure Email Reporting Plug-in の一括インストールツール

Cisco Secure Email Reporting Plug-in の一括インストールを使うと、組織内のユーザが使用できるよう Cisco Secure Email Reporting Plug-in の配布パッケージを作成できます。

配布パッケージを保存するサーバは、サーバ接続の手順でローカルマシンとリモートマシンのいずれかを選択できます。

また、一般オプションとアカウントオプションを編集してデフォルト設定を変更できます。インストールのさまざまな側面を変更するさまざまなコンフィギュレーションファイルを使用す

することもできます。たとえば、さまざまなパラメータ値をカスタマイズして、デフォルトのオプションを部分的に変更できます。また、特定のドメインのユーザのみを対象に構成を事前設定し、ユーザインターフェイスをローカライズしたり、ボタンの名前をカスタマイズしたりできます。

カスタマイズして準備の整った `CommonComponentsConfig.xml` や `config_{n}.xml` ファイルをアップロードできます。

最後のステップでは、一括インストールの実行に必要なすべてのファイルが格納されている共有フォルダのパスと、カスタマイズされたスクリプトを取得します。このスクリプトは、コピーして SCCM 管理ツールで再利用します。

## 一括インストールによって変更されるオプション

Cisco Secure Email Reporting Plug-in の一括インストールを実行すると、インストールプロセスで使用される次のオプションが変更されます。

- 言語、ロギング、シスコへのデータ送信、更新チェックなどの一般的なオプション。
- アカウント オプション（指定ドメインのユーザ用に事前定義された構成）。

## 一括インストール ツールの実行

[スタート (Start) ] メニューまたは [プログラムファイル (Program Files) ] フォルダのいずれかから Cisco Secure Email Reporting Plug-In 一括インストールを実行します。

[スタート (Start) ] メニューから実行する場合：

- [スタート (Start) ] メニューボタンをクリックし、[Cisco Email Reporting Plug-in] > [Cisco Email Reporting Plug-in の一括インストール (Cisco Email Reporting Plug-in Mass Installation) ] に移動します。

または

[Program Files] フォルダから実行する場合：

- Cisco Secure Email Reporting Plug-in がインストールされているフォルダ（通常は **C:\Program Files (x86)\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-in**）に移動し、`Cisco.EmailSecurity.MassInstall.exe` ファイルをダブルクリックします。

## 一括インストール パッケージとスクリプトの準備

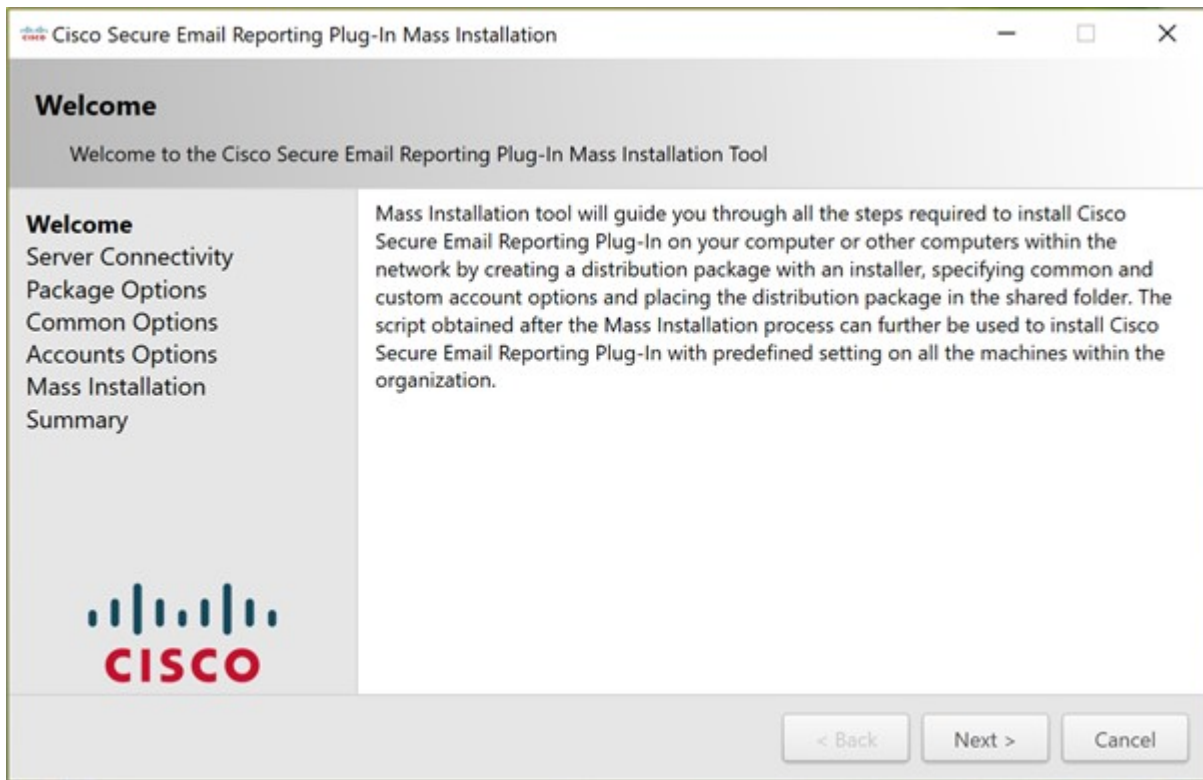
手順は次のとおりです。

手順

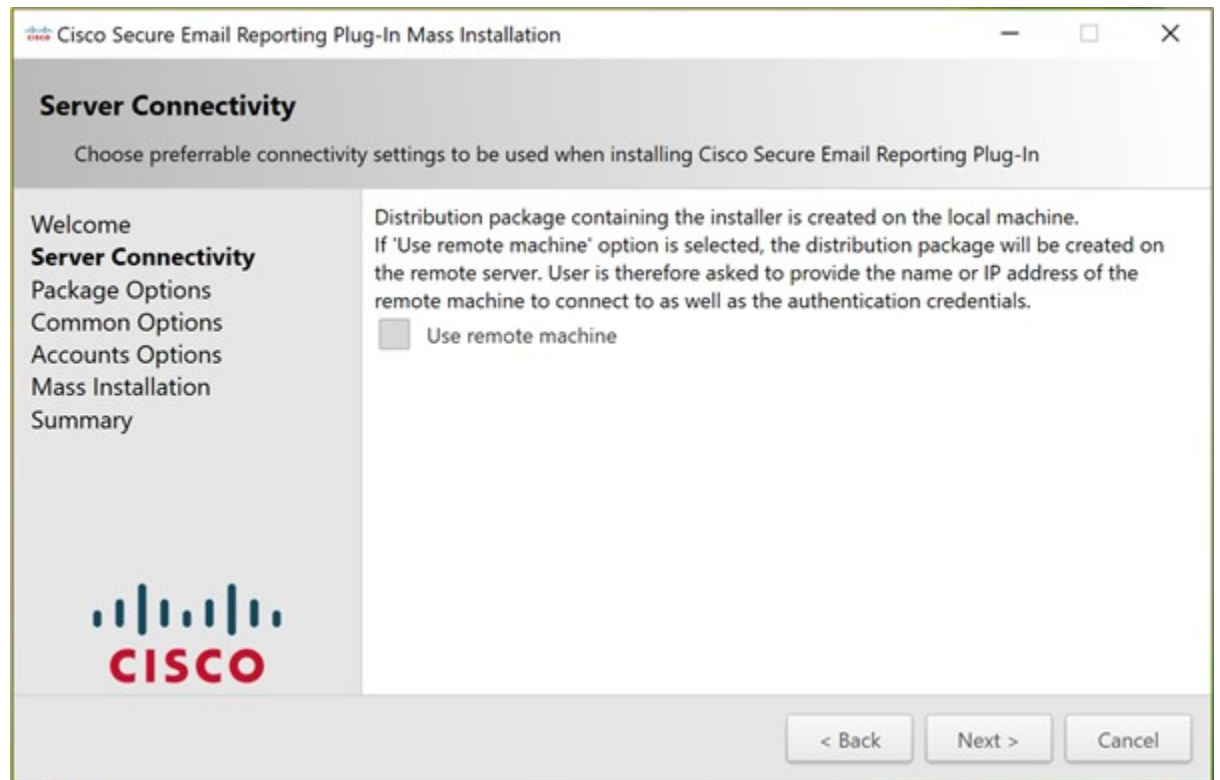
---

**ステップ 1** 一括インストールツールを実行します。

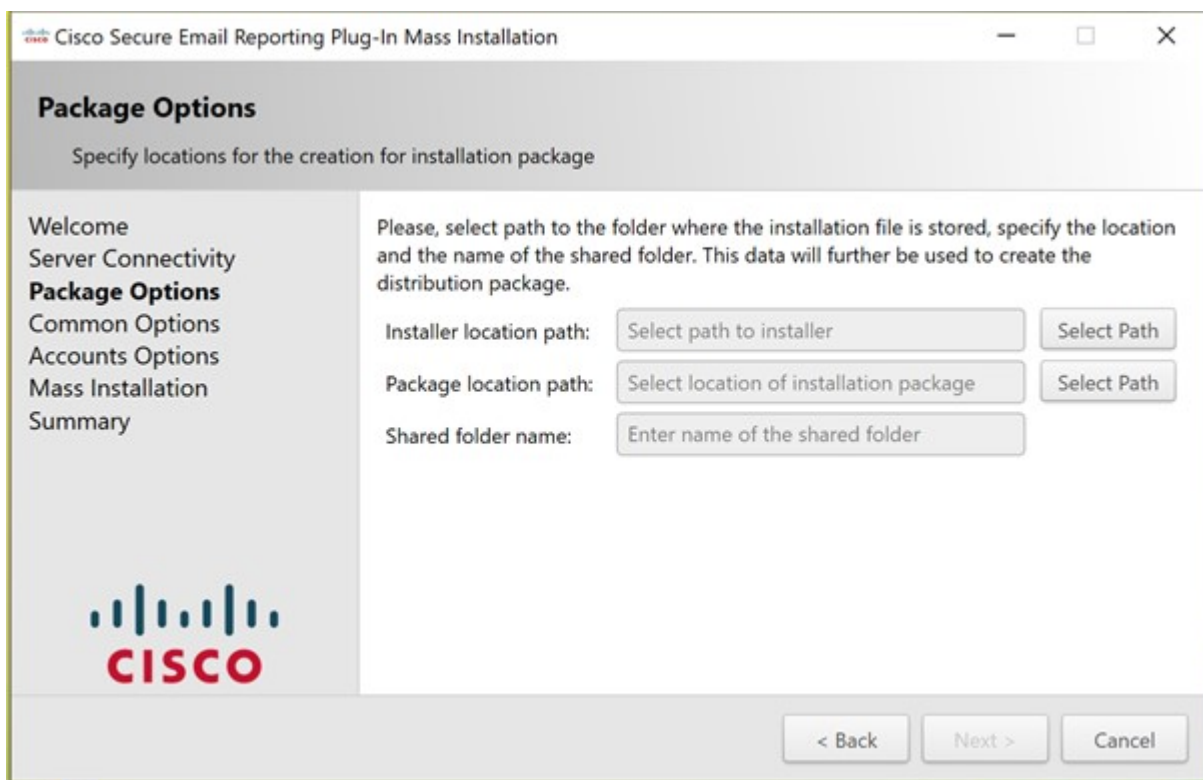
**ステップ2** [ようこそ (Welcome) ] ウィンドウで、[次へ (Next) ] をクリックします。



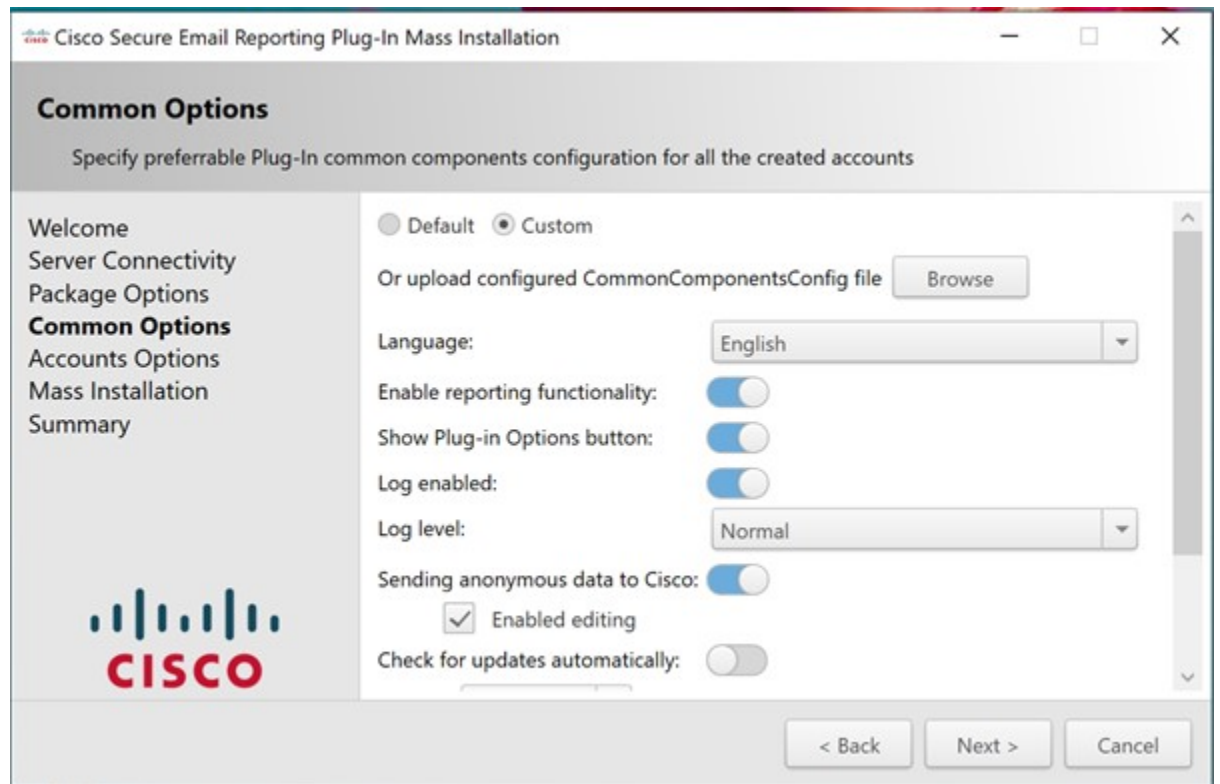
**ステップ3** [サーバ接続 (Server Connectivity) ] ウィンドウで、使用する接続を選択します。ローカルマシンまたはリモートマシンを使用できます。リモートマシンを選択した場合は、[Machine name or IP address, Username] フィールドと [Password] フィールドに入力して [Next] をクリックします。



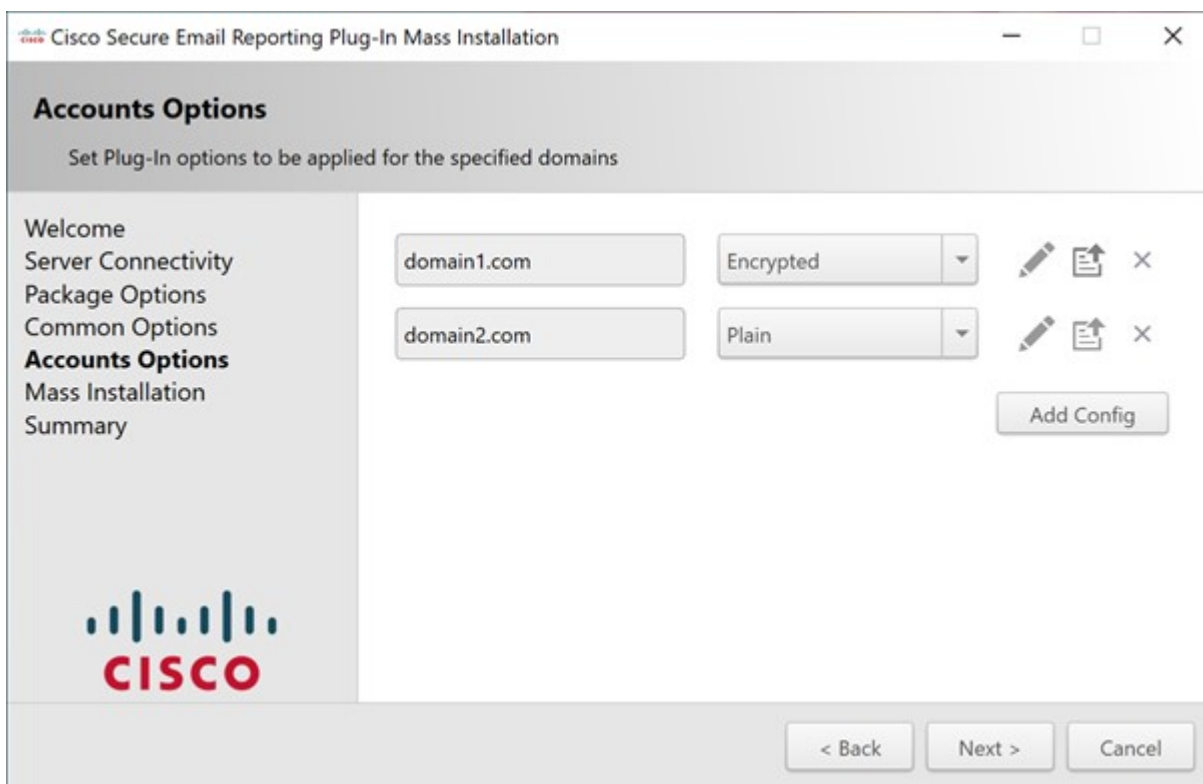
**ステップ 4** [Package Options] ウィンドウでインストールパッケージの作成先を指定して [Next] をクリックします。



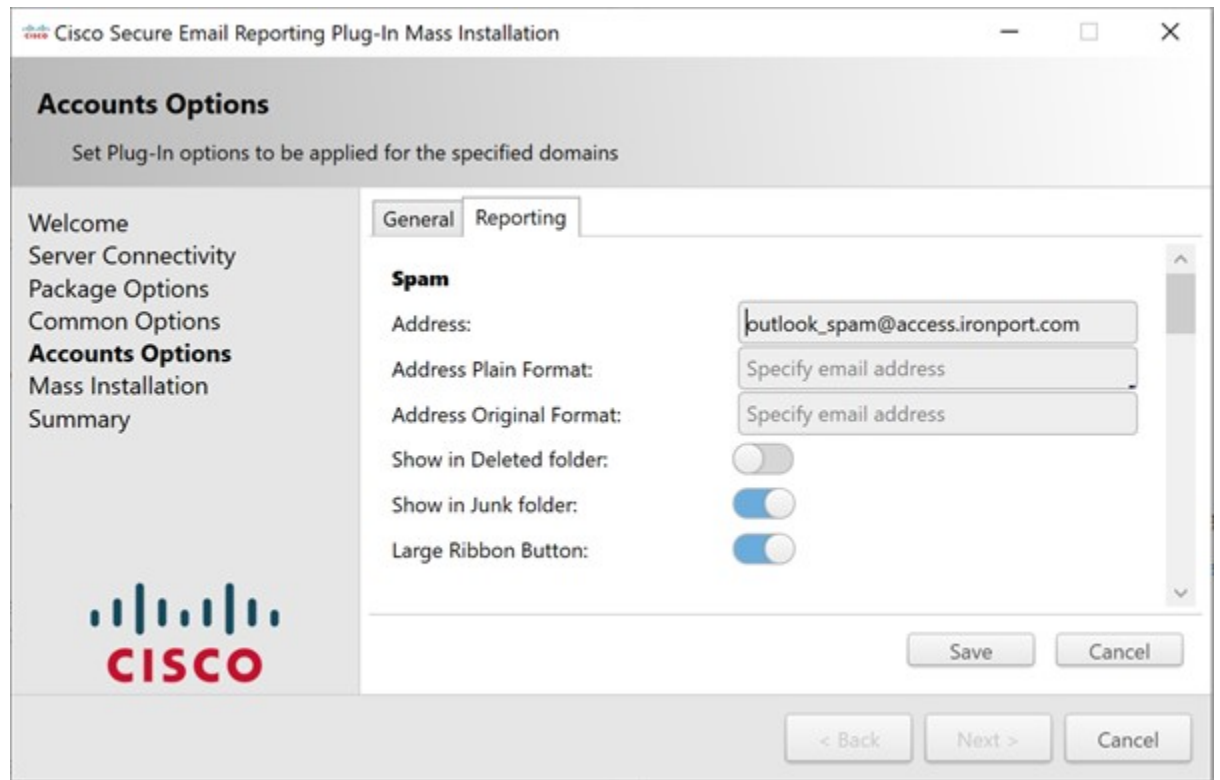
**ステップ 5** [Common Options] ウィンドウで、すべてのアカウントに適用するプラグイン共通の設定を指定して [Next] をクリックします。



**ステップ 6** [Account Options] ウィンドウで、指定したドメインに適用するプラグインオプションを設定して [Next] をクリックします。

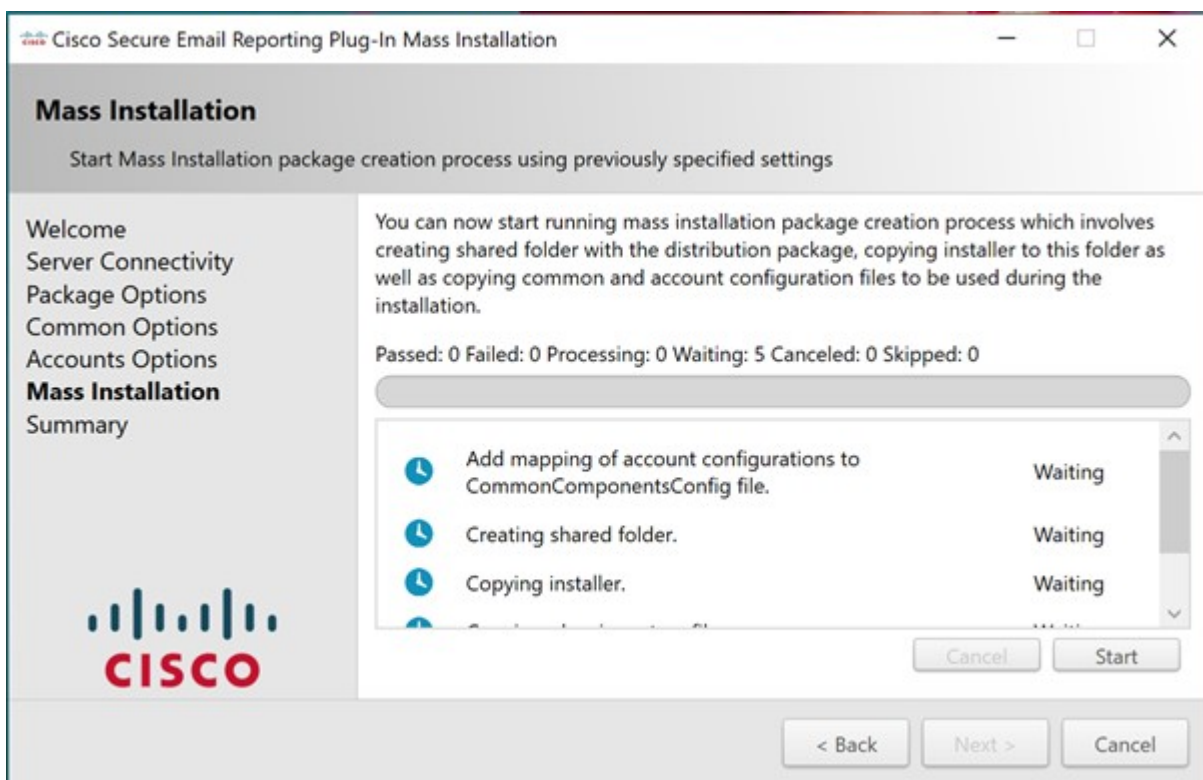


**ステップ7** [Account Options] ウィンドウで [Edit] アイコンをクリックしてプラグインオプションを設定します。[保存 (Save) ]をクリックし、次に[次へ (Next) ]をクリックします。

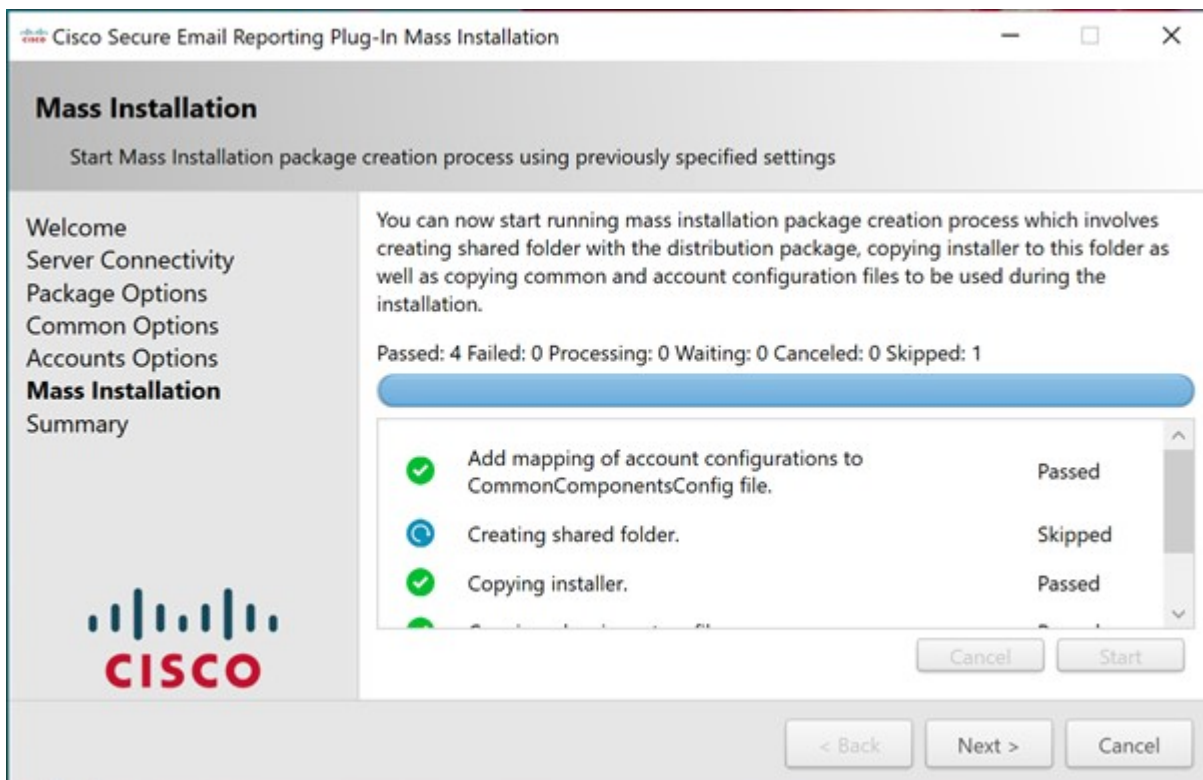


**ステップ 8** [Mass Installation] ウィンドウで [Start] をクリックし、一括インストールのプロセスを開始します。





ステップ 9 一括インストールの処理が完了するまで待ち、[Next] をクリックします。

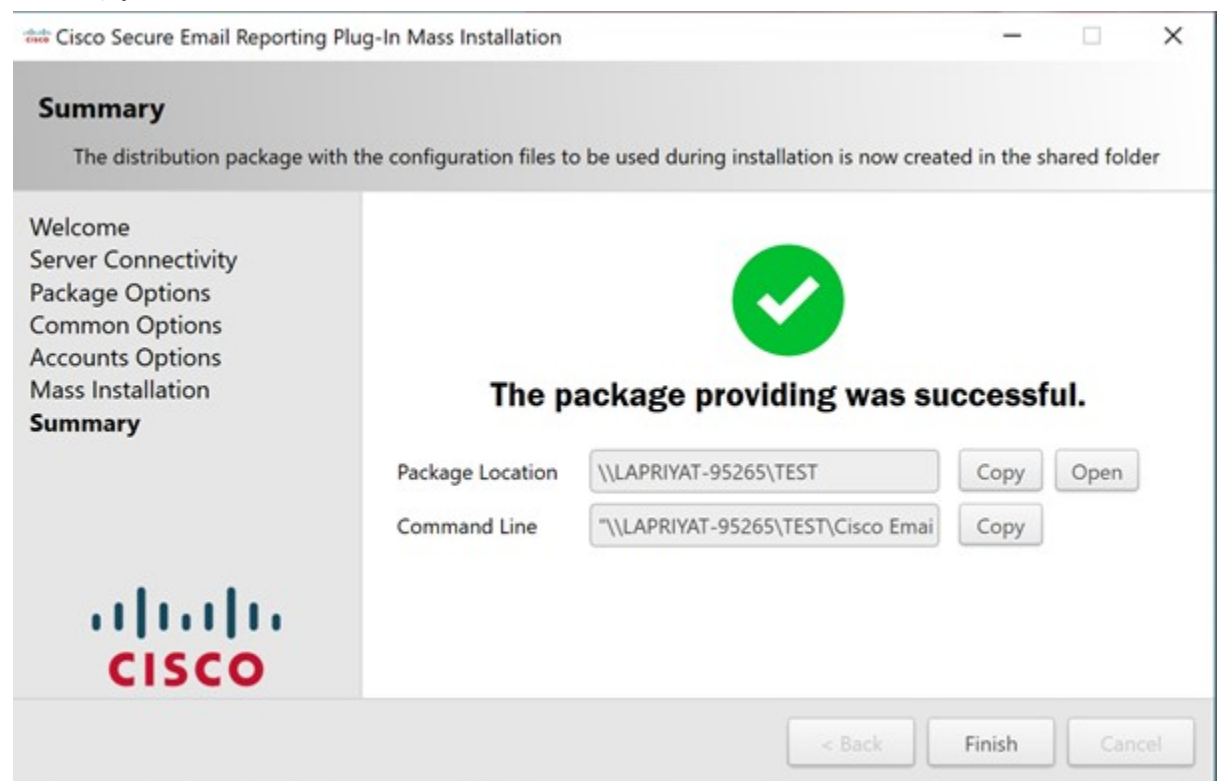


**ステップ 10** [Summary] ウィンドウで、パッケージの格納場所へのパスと一括インストールスクリプトを取得できます。

配布パッケージとインストール時に使用するコンフィギュレーションファイルが共有のフォルダに作成されました。パスをこのフォルダにコピーするか、[Open] をクリックしてフォルダの内容を表示できます。

指定したコマンドをコマンドラインで実行すると、SCCM 管理ツールで事前定義済みの設定を使用して Cisco Email Reporting Plug-in を組織内のリモートマシンにインストールできます。SCCM 管理ツールの操作方法については、[Cisco Secure Email Reporting Plug-in の一括インストールツール \(1 ページ\)](#) をご覧ください。

SCCM ツールで再利用できるようこのスクリプトをコピーしたら、[終了 (Finish)] をクリックします。



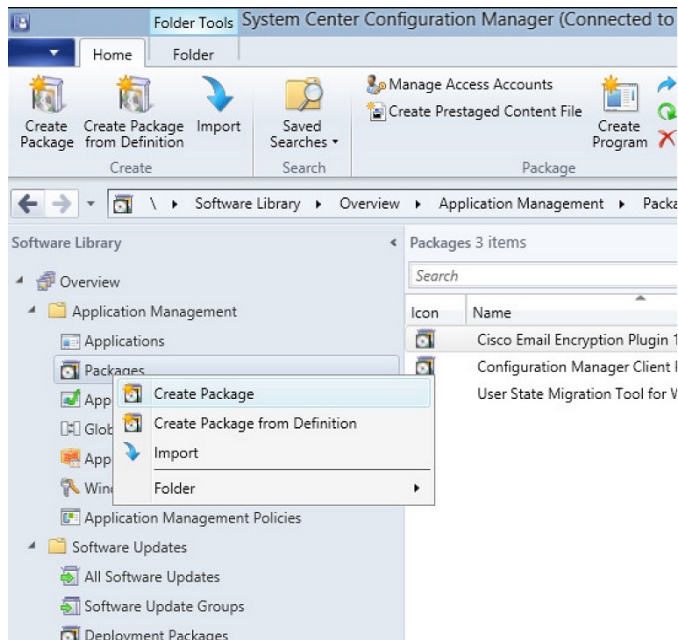
## インストールの実行

インストールを実行するには、次の手順に従って、ネットワーク共有フォルダと配布パッケージを作成し、New Package Wizard と New Program Wizard を完了させます。

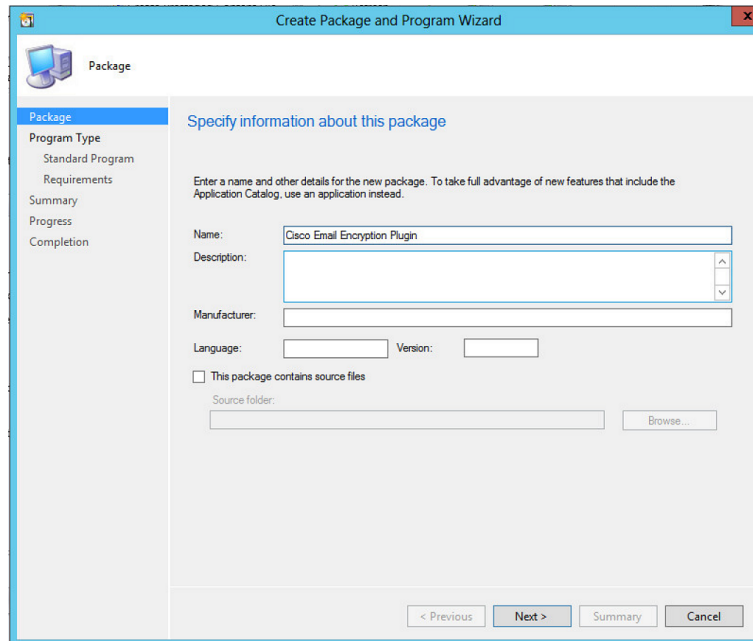
インストールを実行する手順：

## 手順

- ステップ 1** インストールパッケージをダウンロードし、チェックサムを確認します。
- a) 次の URL で Quick Hash GUI と SHA512 ハッシュ アルゴリズムを使用して、インストールパッケージ用のチェックサムを生成します。 <http://sourceforge.net/projects/quickhash/>
- ステップ 2** インストールパッケージを含むネットワーク共有フォルダを作成し、ユーザに対して共有フォルダへのアクセス権限を付与します。
- a) 生成されたチェックサムが次に一致することを確認します。
- E858C451B9E638DD475BEEC79E53BEEA24DEA2827EEEE786921BD0  
6A2D5404A3FA963EB72F9A8ECC4DBD7DBC4BF9C7B8E7448208E450 808E1693E1658C758C8E
- (注) dropbox、ネットワークドライブ、または共有システムフォルダからインストールを実行することはできません。
- ステップ 3** **System Center Configuration Manager (SCCM)** 管理ツールを開きます。
- ステップ 4** 左側のペインで [Application Management] を展開し、[Packages] を右クリックして [Create Package] をクリックします。



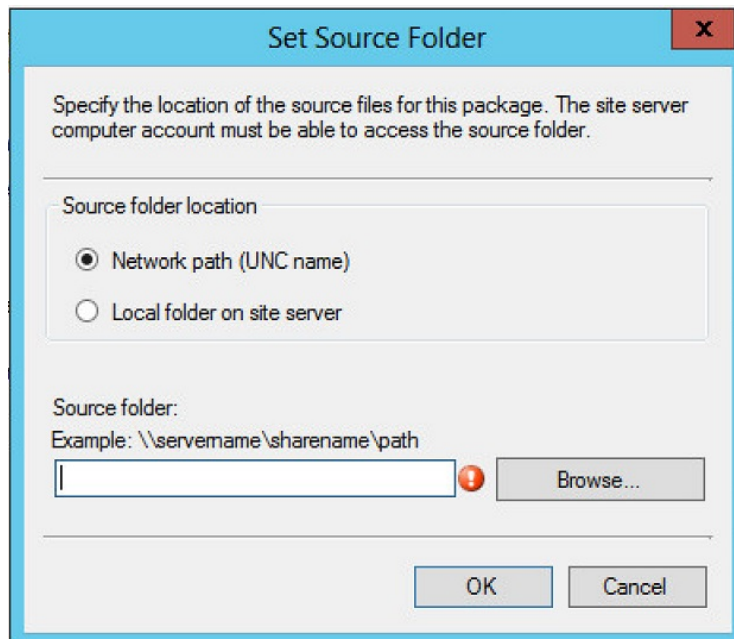
[Create Package and Program Wizard] ウィンドウが表示されます。



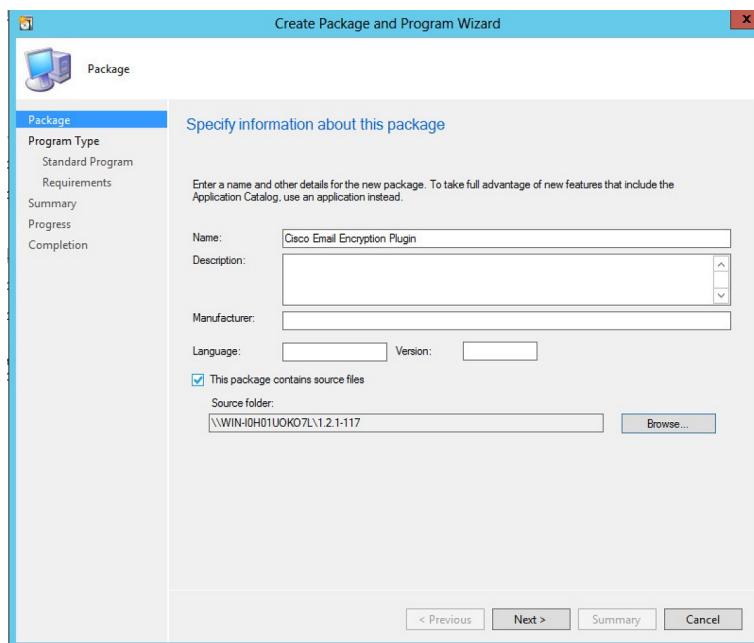
**ステップ 5** [Name] ボックスにパッケージの名前を入力します。たとえば、「Cisco Email Reporting Plugin」と入力します。

**ステップ 6** [This package contains source files] を選択し、[Browse] をクリックします。

**ステップ 7** 表示された [Set Source Folder] ポップアップで [Network path (UNC name)] を選択します。



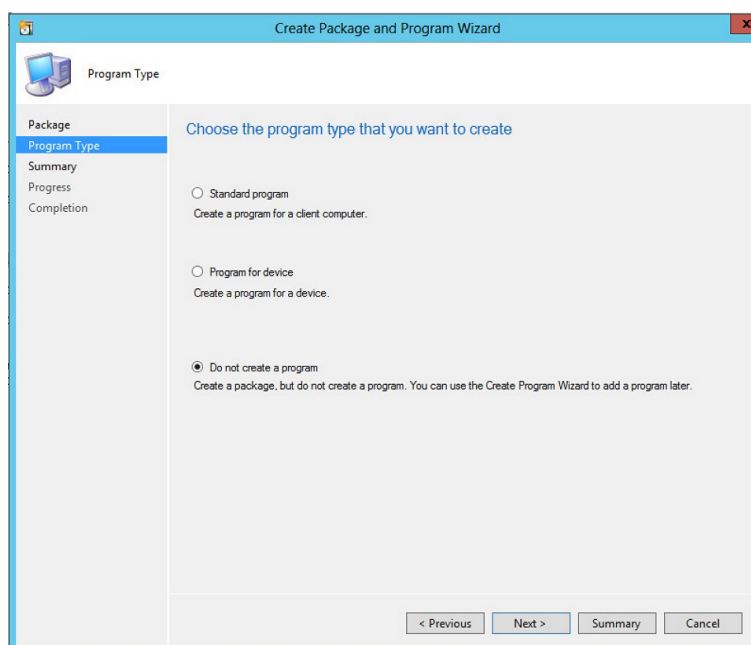
**ステップ 8** [Source] フォルダにステップ 2 で作成したネットワーク ソース ディレクトリを入力し、[OK]



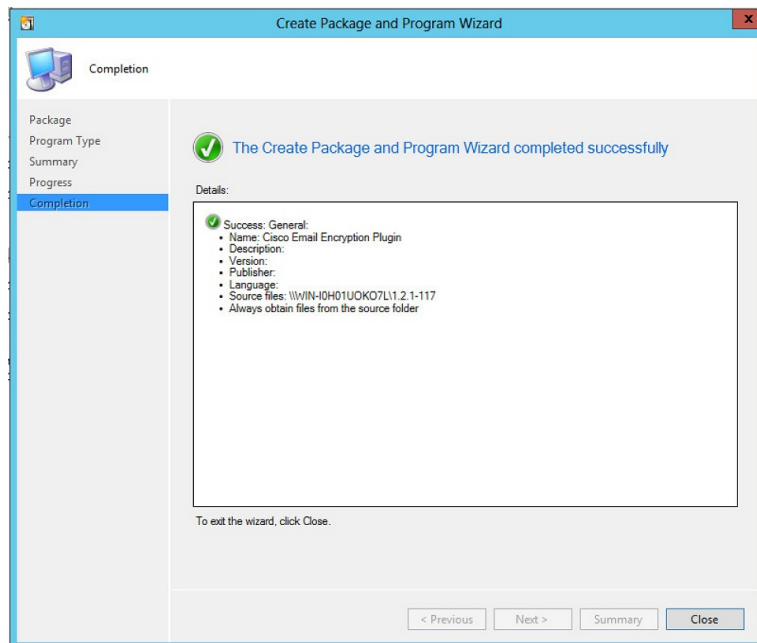
をクリックします。

**ステップ 9** [Next] をクリックします。

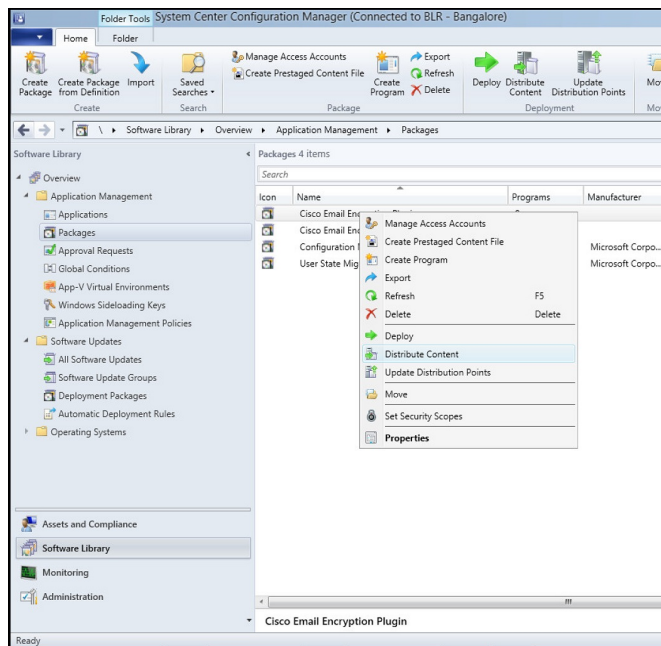
**ステップ 10** [Do Not Create a Program] を選択し、[Next] をクリックします。



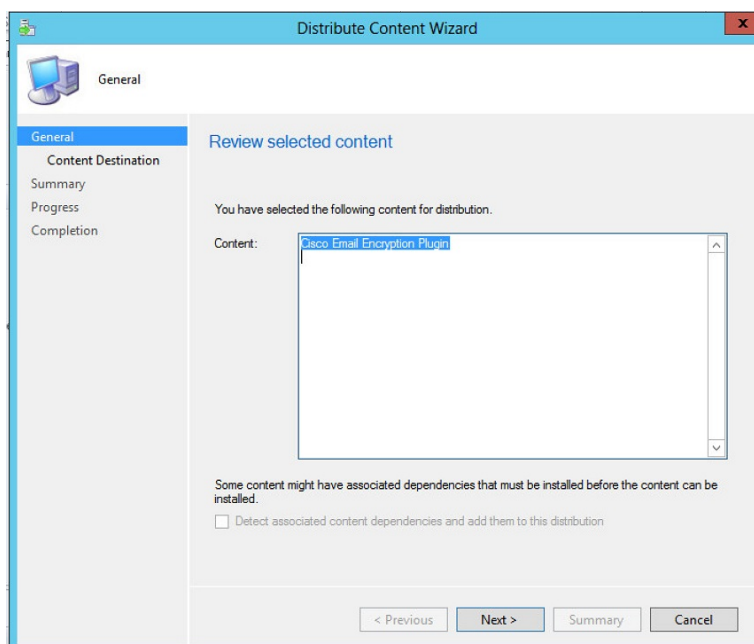
**ステップ 11** [Next] をクリックし、[Create Package and Program Wizard] が正常に完了したら [Close] をクリックします。



**ステップ 12** [System Center Configuration] で作成したパッケージを右クリックし、[Distribute Content] をクリックします。

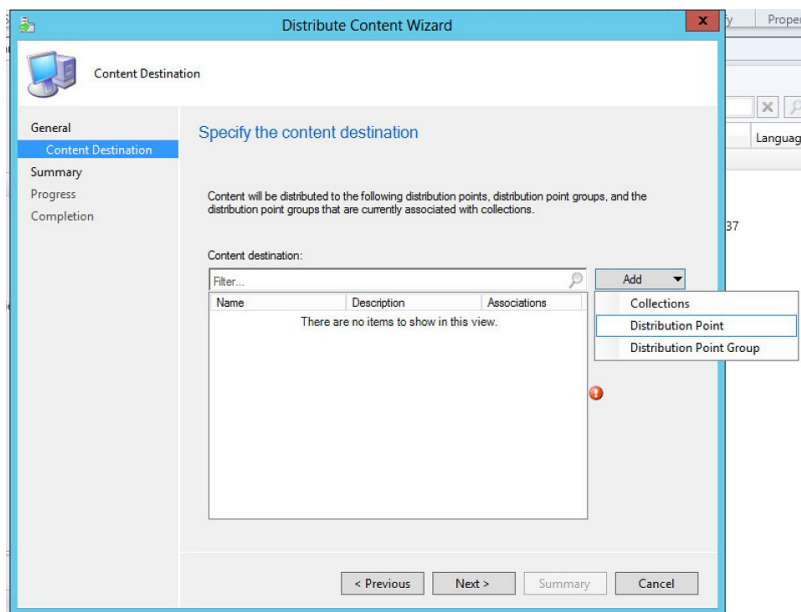


[Distribute Content Wizard] ウィンドウが表示されます。

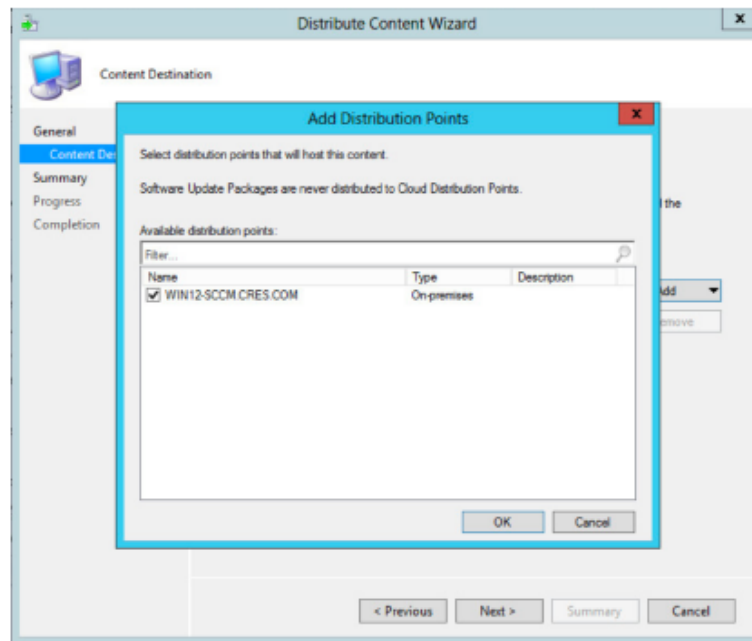


ステップ 13 [Next] をクリックします。

ステップ 14 [Content destination] 画面で [Add] > [Distribution Point] をクリックします。

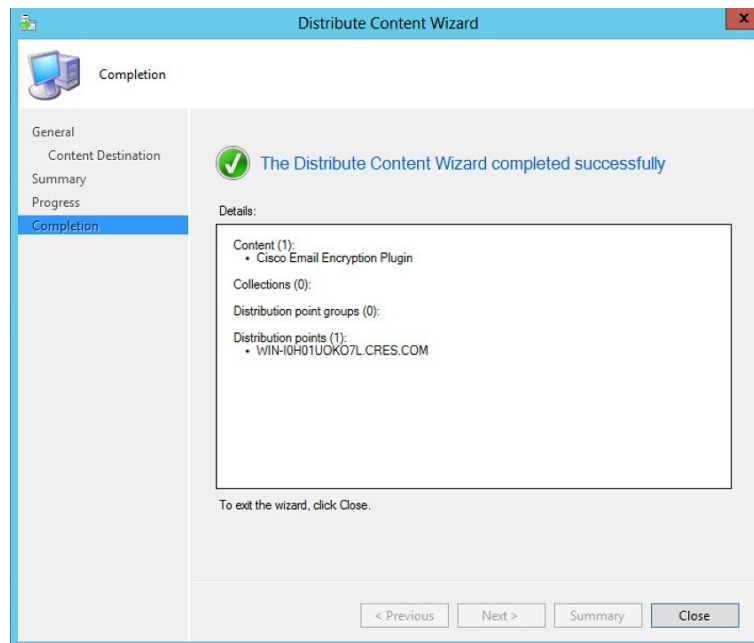


ステップ 15 表示された [Add Distribution Point] ポップアップで必要な項目を選択し、[OK] をクリックします。



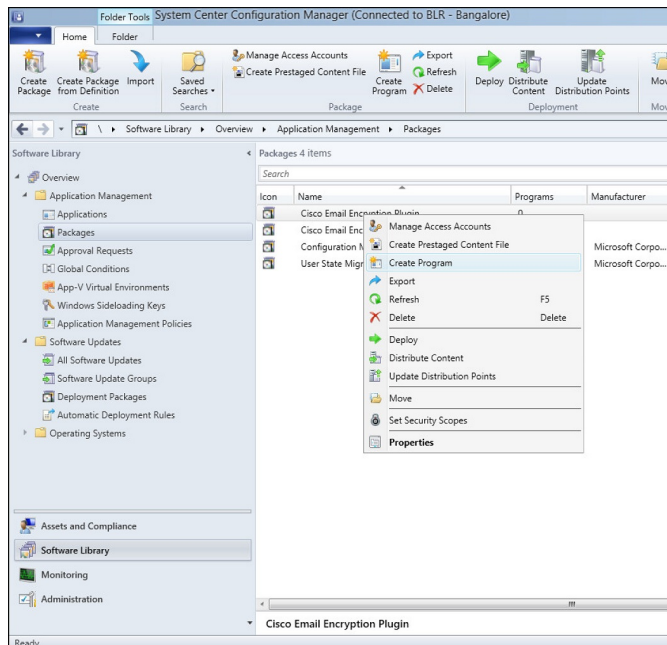
**ステップ 16** [Next] をクリックします。

**ステップ 17** [Next] をクリックし、[Distribute Content Wizard] が正常に完了したら [Close] をクリックします。

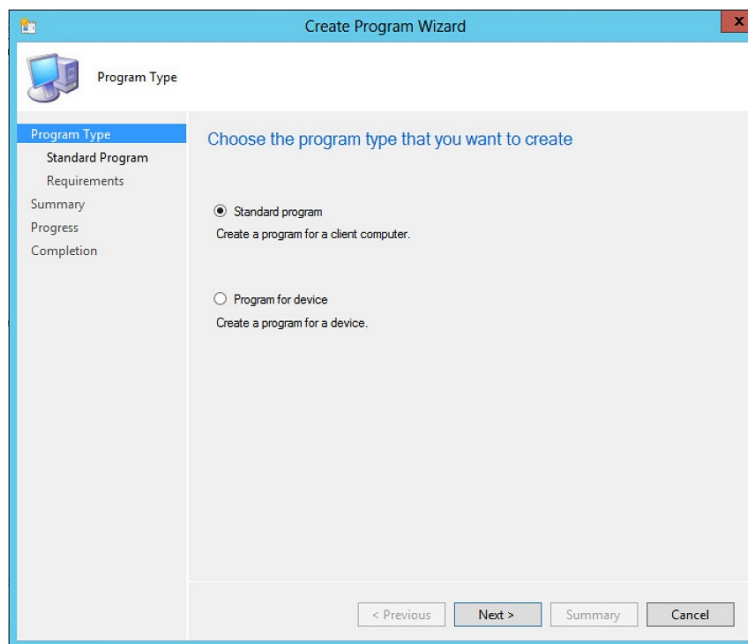


**ステップ 18** [System Center Configuration] で作成したパッケージを右クリックし、[Create Program] をクリックします。

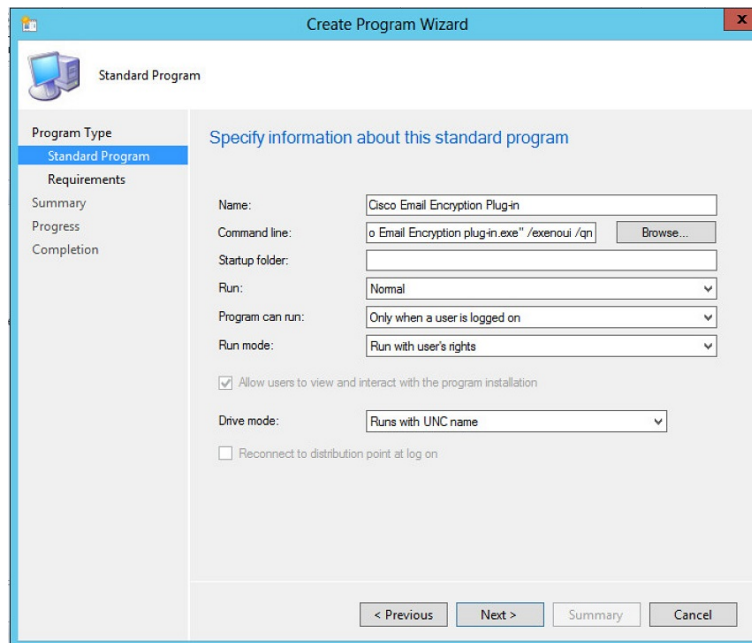




[Create Package Wizard] ウィンドウが表示されます。



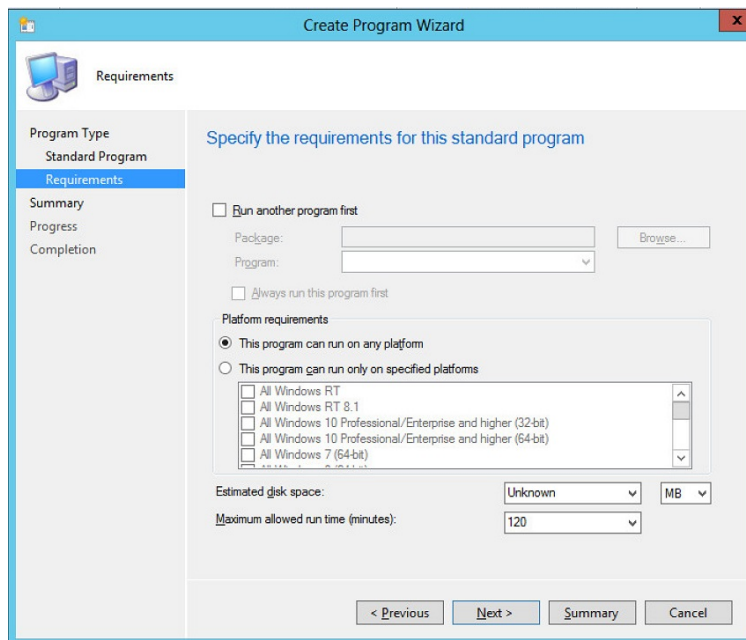
ステップ 19 [Standard Program] を選択して、[Next] をクリックします。



**ステップ 20** [Command line] ボックスに 「“Cisco Email Reporting Plug-in.exe” /exenoui /qn」と入力します。

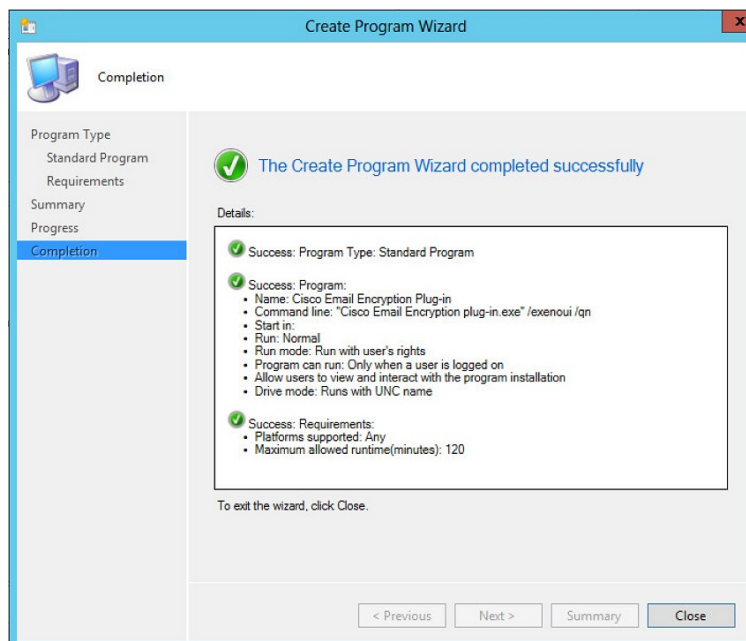
- (注) カスタマイズしたコンフィギュレーションファイルを使用する場合は、このステップで特殊キーを追加して、インストールでカスタムファイルを使用できるようにする必要があります。シンタックス *Cisco Email Reporting Plug-in.exe* /exenoui /qn *UseCustomConfig*="\\sc2007\Shared\config" を使用して特殊なキーをコマンドラインから追加できます (= 記号の後にカスタム コンフィギュレーションファイルの場所を指定)。コンフィギュレーションファイルの詳細については、[カスタム コンフィギュレーションファイルの使用 \(23 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 21** [Next] をクリックします。

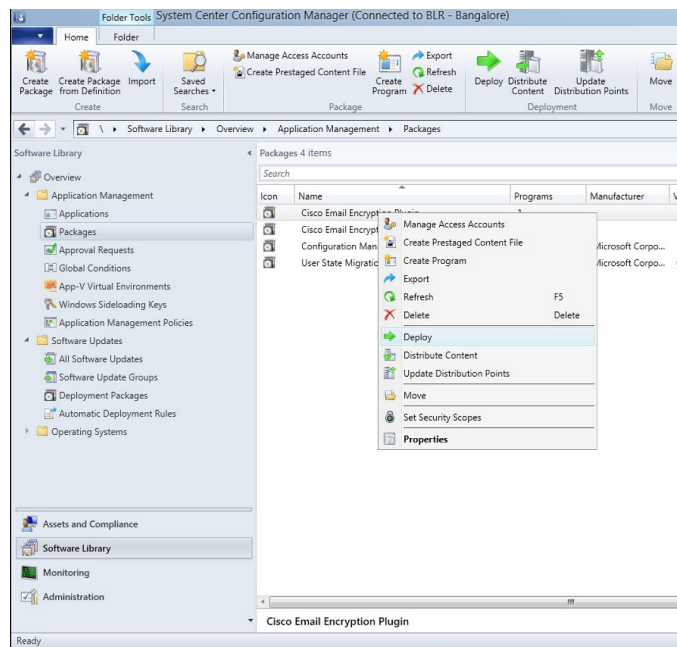


ステップ 22 [Next] をクリックします。

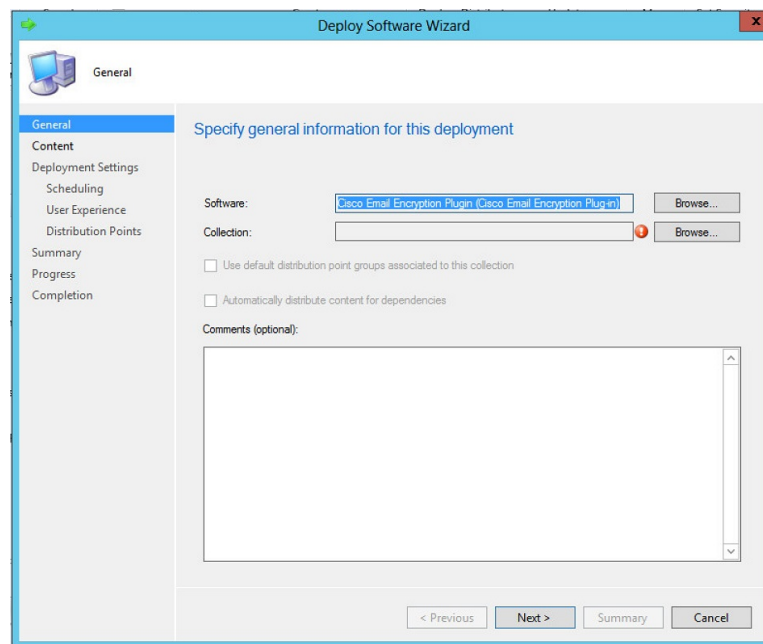
ステップ 23 [Next] をクリックし、[Create Program Wizard] が正常に完了したら [Close] をクリックします。



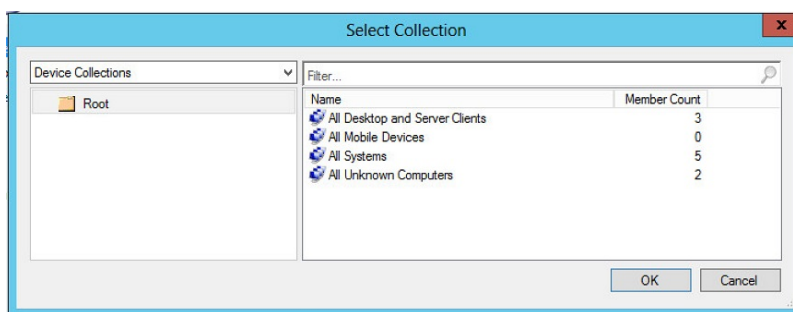
ステップ 24 System Center Configuration Manager で作成したパッケージを右クリックし、[Deploy] をクリックします。



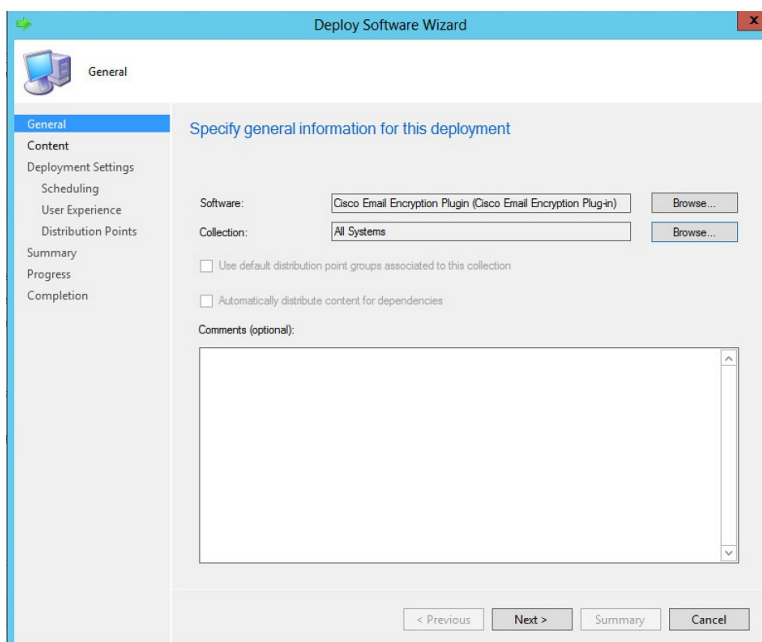
[Deploy Software Wizard] ウィンドウが表示されます。



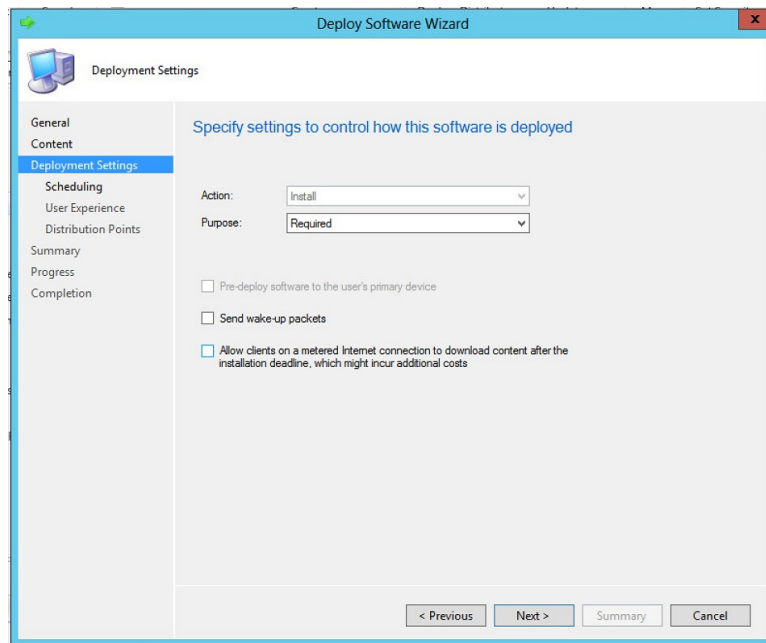
ステップ 25 [Collection] の横にある [Browse] をクリックします。



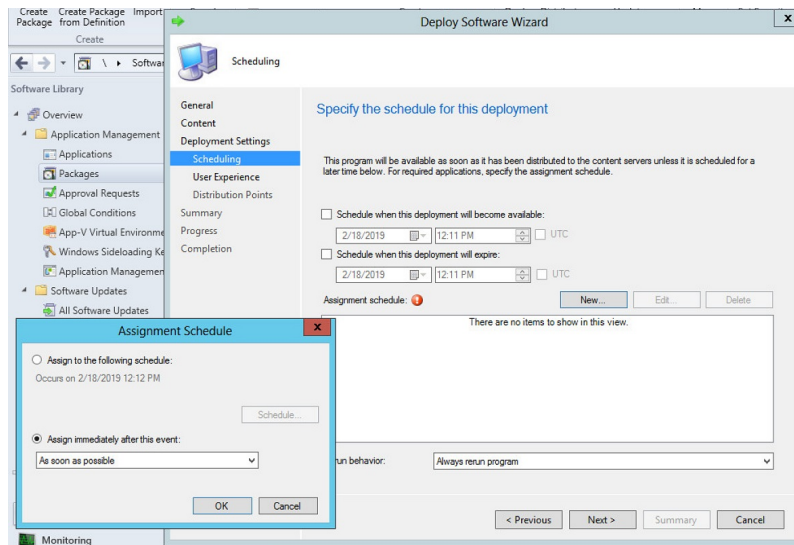
**ステップ 26** 表示された [Start Collection] ポップアップにプラグインをインストールするクライアントのグループが含まれている必要なデバイスのコレクションを選択し、[OK] をクリックします。



**ステップ 27** [Next] をクリックします。



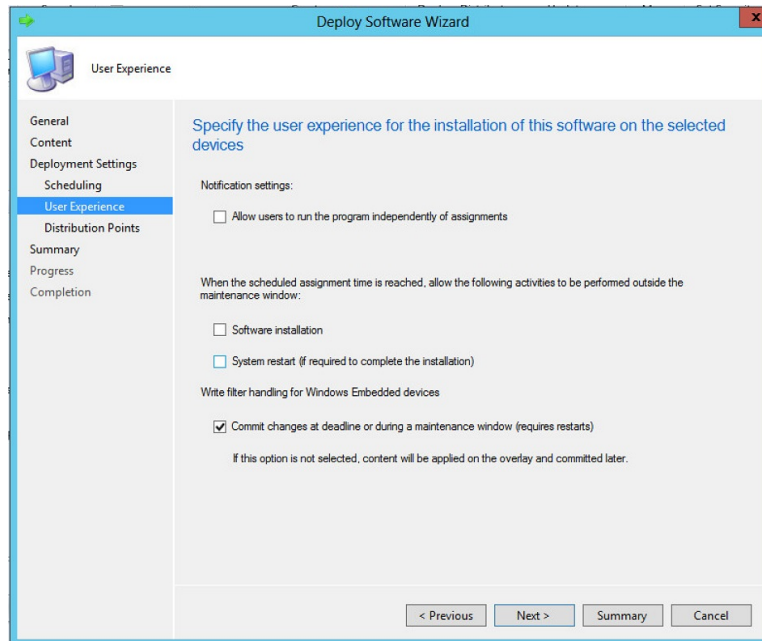
ステップ 28 [Next] をクリックします。



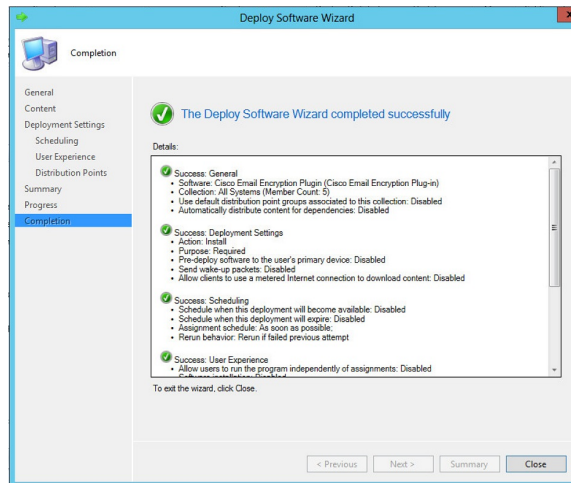
ステップ 29 [Scheduling] ページで [New] をクリックして、新しい割り当てスケジュールを作成します。

ステップ 30 [Assign immediately after this event] を選択し、ドロップダウンリストから [As soon as possible] を選択して [OK] をクリックします。

ステップ 31 [Next] をクリックします。



ステップ 32 [Deploy Software Wizard] が正常に完了したら [Next] をクリックし、[Close] をクリックします。



ステップ 33 [Deployment Status] を参照して、プロセスが正常に完了したことを確認します。

## カスタム コンフィギュレーション ファイルの使用

Cisco Secure Email Reporting Plug-in では、インストールに含まれている一連の XML ファイルを編集することで、デフォルトの設定を変更できます。別のコンフィギュレーションファイルを使用して、インストールの設定を変更することもできます。たとえば、config\_1.xml コンフィギュレーションファイルのレポート コンポーネントのセクションでは、報告用の最大メール

サイズ、報告後にファイルのコピーを保持するかどうかなどのデフォルトオプションの一部を変更できます。ボタン名をカスタマイズしたり、さらに、ユーザインターフェイスで使用されるテキストをローカライズすることもできます。

## 概要

カスタムコンフィギュレーションファイルを変更して展開するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In` ディレクトリのコピーを作成します。

(注) 妥当性を保つために、元のファイルのディレクトリ構造を維持する必要があります。**Cisco Email Reporting Plug-in** ディレクトリから始まる構造が維持され、コンフィギュレーションファイルと共にすべてのファイルが含まれていることを確認します。

**ステップ 2** XML コンフィギュレーションファイルを編集します。新しいファイルを作成する代わりに、インストールファイルに含まれている XML ファイルを変更することをお勧めします。これらのファイルの変更方法については、[XML コンフィギュレーションファイルの編集 \(25 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 3** `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common\CommonComponentsConfig.xml` ファイルに移動します。

**ステップ 4** `CommonComponentsConfig.xml` ファイルに次のタグが含まれていることを確認します。

```
<accountFileNames>
<accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddress="*" />
</accountFileNames>
```

**ヒント** `accountFileName` タグには `profileName` 属性を含めないでください。属性が含まれている場合は、削除してください。

(注) 特定ドメイン内の選択したユーザだけを設定するには、そのドメインを電子メールアドレスとして指定するように、`CommonComponentsConfig.xml` ファイルを変更する必要があります。

たとえば、シスコのユーザだけにコンフィギュレーションファイルを適用するには、下記を変更します。

```
<accountFileName filePath="config_1.xml"
emailAddress="*" />
```

が、次のように変わります。

```
<accountFileName filePath="config_1.xml" emailAddress="@cisco.com" />
```

`accountFileName` タグが複数ある場合、`filePath` は、`config_2.xml`、`config_3.xml` のようになります。次に例を示します。

```
<accountFileName filePath="config_2.xml" emailAddress="@cisco.com" />
```



ステップ5 インストールの前提条件 (1 ページ) の説明に従って一括インストールを実行し、**カスタムコンフィギュレーションファイルの展開 (26 ページ)** の説明に従って、カスタマイズした XML ファイルを展開します。

(注) `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common` ディレクトリのコンテンツを `\\{SHARED_DIR}\{CONFIG_FOLDER}\Common` にコピーする必要があります。UseCustomConfig コマンドパラメータを使用すると、変更したカスタムコンフィギュレーションファイルをインストールで使用できます。

## XML コンフィギュレーションファイルの編集

Cisco Secure Email Reporting Plug-in をインストールすると、構成データが作成されて XML ファイルに保存されます。文字列型の値を編集して、パラメータ値をカスタマイズすることができます。ただし、値を削除することや、ファイルの構造を変更することはお勧めしません。

デフォルトでは、プラグインによって、Outlook の次の場所にある `%AllUsersProfile%` ディレクトリにコンフィギュレーションファイルがインストールされます。

```
%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug In
```

XML ファイルは次のデフォルトの場所にあります。

- `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\{username}\config_1.xml, config_{N}.xml`. この番号はユーザアカウントの数によって異なります。報告可能な最大メールサイズなど、Reporting Plug-in に関連する設定データが保存されます。Reporting の設定を変更することはお勧めしません。
- `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common\CommonComponentsConfig.xml`. ログファイルの場所や、ローカリゼーションファイルの名前 (デフォルトのローカリゼーションファイルは `en.xml`) など、レポートプラグインに共通する基本的な構成データが含まれています。電子メールプログラムの設定を使用してログファイルの場所を変更し、一括インストールプログラムによってそれを展開できます。使用可能なローカリゼーションファイルとは異なる言語でローカリゼーションファイルを作成する場合は、新しい XML ファイルの名前をここで指定する必要があります。
- `\\%allusersprofile%\Cisco\Cisco Email Reporting Plug-In\Common\Localization\en.xml`. ローカル言語に関連するデータが含まれています。デフォルトの言語は英語です。ただし、`de.xml`、`es.xml`、`fr.xml`、`it.xml`、`zh.xml`、`pt.xml`、`ja.xml` など、いくつかのローカリゼーションファイルが使用可能です。これらの xml ファイルの対象外の言語を使用する場合は、カスタム xml ファイルを作成し、そのファイルを `CommonConfig.xml` ファイルで指定できます。



### 注意

<または> 記号内にある文字列 ID はいずれも変更しないでください。変更すると、プラグインが適切に機能しなくなります。

## 例

次の例は、en.xml ファイルへの変更例を示しています。

レポートツールバー内のテキストを変更するには、en.xml xml ファイルで次のセクションを探し、太字で表記されているテキストを編集します。

```
<group name="Mso.Report.Button.Cations">
<string id="blockSender">Block Sender</string>
<string id="spam">Spam</string>
<string id="ham">Not Spam</string>
<string id="virus">Virus</string>
<string id="phish">Phish</string>
</group>
```

たとえば、よりわかりやすいタイトルを追加したい場合は、テキストを次のように変更できます。

```
<group name="Mso.Report.Button.Cations">
<string id="blockSender">Block Sender using Outlook</string>
<string id="spam">Report Spam</string>
<string id="ham">Report Not Spam</string>
<string id="virus">Report Virus</string>
<string id="phish">Report Phishing Attacks</string>
</group>
```

## カスタム コンフィギュレーション ファイルの展開

コンフィギュレーションファイルの編集が完了したら、展開時に特殊キーを追加して、変更したカスタム コンフィギュレーション ファイルがインストーラで使用されるようにする必要があります。**UseCustomConfig** コマンドラインパラメータを使うと、インストールでカスタム コンフィギュレーションファイルを使用できます。また、このパラメータによって、インストール時に使用するコンフィギュレーションファイルが格納されているフォルダのパスを指定します。

一括インストールで、次のシンタックスを使用してコマンドラインから **UseCustomConfig** キーを追加します ([インストールの前提条件 \(1 ページ\)](#) を参照)。

```
Cisco Email Reporting Plugin.exe /exenoui /qn
UseCustomConfig="\\{SHARED_DIR}\{CONFIG_FOLDER}
```

=の後ろのパスによって、カスタマイズしたコンフィギュレーションファイルのパスを指定します。